

七月三十一日 つづき

難波和彦さんから電話あり、あいさつに伺いたいと言う。秋からの東大教授就任の件であろう。この件はだいぶ前から何故か知っていたのだが鈴木さんから、しゃべるなよ、黙っていると云われていたので、勿論口外しなかった。安藤忠雄の後ガマに難波さんを持つてくるというのは意表を突くようではあるが、良く良く考えてみれば名人事なのだ。東大の人事にとやかく口を挟む筋合いではないが、東大建築はしっかりした人事をやるな。夕方会って飯でも喰おう。ともあれ、良かった。

十四時広島より二名来室。市役所の塚田さん、広島の落語家榎雅之さんとひろしまハウスの件で相談。広島の高校生とプノンペンの高校生との共同音楽会の企画が浮上した。プノンペンのひろしまハウスで音楽会が開催できたら面白いな。十六時早稲田の原さん宅へ。コンバージョンプロジェクトがようやく動き始める気配になってきた。今日の東京新聞に我々のコンバージョンプロジェクトが大きく出ていたのも幸いした。原さん一家が前向きに取り組んでくれれば良いな。十七時研究室に戻る。十七時半難波さん来室。四方山話。高田馬場文流で食事。難波さんと直接会って話するのは久しぶりだが、エエで時々彼の日記をのぞいているのでその感もなく、何か変な感じである。難波さんが大阪から東京に戻り東大に納まる事になるのは、大変良い事だ。今の軟弱な無風状態に硬派の風穴を開けてもらいたい。新大久保に電車で

移り、駅前のソバ屋で、再び飲む。あんまり酒は飲みたくはないのだが、今日はイヤ。しかし、私も余程グラつかないで頑張らないとイカんなコレワ。しかし、山手線でハシゴ酒というのも難波さんと、私らしくて変で良かった。彼のBOXシリーズはすでに#96まで進行しており、師の池辺陽のナンバー・シリーズと回数に達したとの事。五年で成し遂げたのだから仲々のもんだ。私のオープン・テック・ハウスの連作は彼に言わせれば「ゲイジュツ」なんだそうだが、そうは簡単に問屋は降ろさせないぞ。ゲイジュツ的工務店活動はこれからが本番なのだ。